

平成30年6月27日現在

機関番号：84418

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02188

研究課題名(和文) 昭和期日本における幻灯(スライド)文化の復興と独自の発展に関する研究

研究課題名(英文) Research project on lantern slide culture in Showa Japan

研究代表者

鷺谷 花 (Washitani, Hana)

一般財団法人大阪国際児童文学振興財団・その他部局等・特別専門員

研究者番号：10727100

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：幻灯(スライド)は、従来「映画以前」の映像メディアとして認識され、20世紀初頭の映画の普及以降の動向については、ほとんど研究対象とされてこなかった。それに対して、本研究では、幻灯が第二次世界大戦期の日本で復興し、戦後の教育及び社会運動の場で幅広く活用される過程に注目した。1940～50年代につくられた幻灯のフィルム及び説明台本を多数発掘し、また、当事者及び遺族に対する聞き取り調査を実施することで、従来知られていなかった昭和期の幻灯文化の実態の一端を解明した。発掘したフィルム資料については、アナログ及びデジタル復元に取り組み、山形国際ドキュメンタリー映画祭等での一般向けの上映活動を展開した。

研究成果の概要(英文)：Japanese term "gentou" (originally a translation of the English "magic lantern") means the projection system enlarging and projecting still images onto a large screen. Most studies argue that these still-image projection media declined in the early twentieth century Japan with the arrival of the motion picture. So there were few studies on the post-cinematic gentou history in Japan. However, in this research project, we tried to shed light on the revival and redevelopment of gentou in mid-twentieth-century Japan, focusing on gentou in the post-war social movements. We discovered several gentou films and scripts used in various post war social movements, including labor disputes, social welfare movements, and so on. We did interviews people involved in gentou movements or their families, and clarified several unknown facts about production, distribution, and screening gentou in 1950s social movements. We also restored several important gentou films and showed them to the public.

研究分野：映画学 日本映像文化史

キーワード：幻灯 メディア 社会問題 社会運動 労働組合 映像文化 文化工作 セツルメント

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトは、昭和期の幻灯（スライド）文化について、資料の発掘・整理を進めつつ、本格的な再検証を行うべく開始された。研究を開始した当初、幻灯とは、基本的には19世紀末に映画が商用化される「以前」の映像メディアとしてのみ認識され、「映画以後」の幻灯史についてはほとんど忘却された状況にあった。昭和期日本で作られた幻灯フィルムやスライド、上映時に用いられた説明台本等の一次資料の多くは、散逸または未公開の状態にあり、当時の幻灯の製作及び流通、運営に関する具体的な事情についても不明点が多かった。戦後の社会運動における重要な映像メディアとしての幻灯の担った教育宣伝、支援の拡大、記録等の機能についても、従来は、映像文化史の領域においても、社会史の領域においても、ほとんど調査研究は進められてこなかったといえる。

一方、英語圏では、19世紀以降の社会問題・社会運動と、幻灯から映画に至る「スクリーンのメディア」との関連についての研究が蓄積されつつあり、このテーマに関する研究論文集『Screen Culture and the Social Question, 1880-1914』（Indiana University Press, 2014）なども刊行されている。また、戦後日本の社会運動における文学・文化運動については、道場親信、鳥羽耕史、水溜真由美らの先行研究がある。本研究プロジェクトは、それらの先行研究を参照しつつ、昭和期日本における幻灯文化史を、とりわけ戦後の社会問題・社会運動における活用に焦点を置いて調査研究を行うべく開始された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「映画以後」の幻灯文化史を、昭和期日本の社会運動との関連性に注目しつつ、新たに解明してゆくことだった。

研究開始当時、この分野に関する日本語の先行研究はほぼ存在しておらず、資料の保存状況についても不明点が多かったため、関連する資料を所蔵する国内外のアーカイブと連携し、フィルム・スライドや台本などの一次資料の所在の確認と整理を進め、必要に応じて復元作業を行い、適切な保管体制の確立へと取り組むことが、本研究の重要な目的のひとつとなった。また、昭和期の幻灯についてはまとまった文献資料が乏しいため、文献の欠落を補うべく、幻灯の製作や上映に関わった存命の当事者の協力を得て、オーラル・ヒストリーの収集を進める必要もあった。

発掘・整理・復元した映像資料については、全国各地での上映活動を積極的に展開することで、一般にはほとんど知られていない昭和期の幻灯文化の価値と意義について、周知することを目指した。

3. 研究の方法

昭和期の幻灯に関しては、主に社会運動・労働運動に関連して製作・上映された幻灯のフィルム及び説明台本のコレクションが神戸映画資料館に所蔵されており、また、早稲田大学演劇博物館には占領期から戦後1950年代を中心に、主に学校及び公民館での教育・レクリエーションに活用されてきた幻灯のフィルム及び説明台本のコレクションが所蔵されている。これらの資料体の精査に取り組みとともに、全国の映像アーカイブ及び、エル・ライブラリーや大原社会問題研究所ほか、労働運動・社会運動に関連する資料を所蔵する機関での調査を行い、未発見・未整理資料の発掘に努めた。同時代に幻灯の製作・流通・上映に関わった複数の関係者及び遺族と連絡を取り、オーラル・ヒストリー及び手記などの個人蔵資料を収集した。

所在を確認した一次資料の多くは経年劣化が著しかったため、とりわけ貴重なフィルム資料に関しては、権利所有者の許諾を得たうえで、デジタルスキャンを行ない、さらに上映・保存用の複製ポジを作成した。

神戸映画資料館、エル・ライブラリー、原爆の図丸木美術館、山形国際ドキュメンタリー映画祭ほか、全国各地でフィルムと幻灯機を用いた一般向けの上映を行なったが、これらの上映活動は、資料の価値を一般に周知するのみならず、幻灯について、何らかの知識や情報、資料を所有している人々との交流の機会ともなった。

4. 研究成果

研究の過程で、これまで未発見または未公開状態にあったいくつかの貴重な映像資料を発掘した。その一例としては、松川事件に関連して最初に作られた映像作品としての『松川事件 1951』、千田梅二版画・上野英信文の「えばなし」を原作とする幻灯『せんぷりせんじが笑った!』、失業対策事業で就労する日雇労働者が自主製作した幻灯『にこよん』及び、映画女優・望月優子の監督作品である失対日雇労働者のドキュメンタリー『ここに生きる』、敗戦直後から子ども会での幻灯上映活動を開始し、晩年まで幻灯映写を続けた川本年邦氏の旧蔵資料などがあげられる。

これらの映像資料は、いずれも権利所有者の許諾を得て保存・上映用のポジプリントを作成し、一般に向けた上映を実現させた。2015年の山形国際ドキュメンタリー映画祭の公式プログラム「幻灯は訴える」では、『基地沖縄のうったえ』『せんぷりせんじが笑った!』ほか5作品の英語字幕付の上映を実現した。『せんぷりせんじが笑った!』は、デジタル版を作成し、2017年4月に英国・バーミンガムで開催されたThe Magic Lantern Society大会にて上映したが、これは昭和戦後の社会運動の一環として作られた幻灯を、

台本を英語訳して海外で上映したおそらく最初の機会となったと考えられる。

1950年代に幻灯を製作、または社会運動の場で上映した当事者は、いずれも現在は相当の高齢だが、東京の幻灯会社日本幻灯文化社の元経営者の遺族、大阪で活動していた関西幻灯センターの元責任者、『せんぷりせんじが笑った!』の幻灯化に携わった元満洲映画協会(満映)~中国東北電影会社のスタッフの遺族などと連絡を取ることができ、インタビューの機会及び、いくつかの貴重な資料の提供をいただいた。敗戦当時に満映に所属し、その後新中国の映画事業に参加した後に帰国した映画人たちが、引揚後に幻灯の製作に関わった実態が、遺族の証言により明らかになり、1950年代の日本と中国の間に幻灯を介した文化交流が存在していたことが判明したこと、いわゆる革新政党及び日本労働組合総評議会と密接な関係にあり、1950~60年代の社会運動に関連する幻灯の多くを製作・配給していた日本幻灯文化社の、従来はほとんど不明だった沿革が、遺族からの資料提供により部分的に明らかになったことなど、聞き取り調査活動を通じて、幻灯文化史の空白を埋める重要な資料・情報を得ることができた。

調査・研究の成果については、上述した上映活動のほか、研究代表者の鷺谷花が、2015年6月のAAS-in-Asia-Taipeiで英語口頭発表を行い、2016年2月刊行の『Feminist Media Histories』に論文“Gento: Still-Image Projection as Alternative Cultural Heritage”が掲載されるなど、英語での学会口頭発表・学会誌論文発表を含めて、複数の学会発表及び学会誌論文で公開してきた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

鷺谷花「幻灯『松川事件 1951』—社会運動におけるメロドラマ的映像空間の構築—」、『昭和文学研究』(71)、28-41、2015年9月

鳥羽耕史「「記録」としての幻灯 - 機動性を持つ社会運動のメディア」、『スポーツニク』(2)、55-57、2015年10月

鷺谷花「マンガ・プロジェクション: 『忍者武芸帳』と昭和期日本の静止画映写文化」、『ユリイカ』47(15)、209-220、2015年10月

Hana Washitani, Gento: Still-Image Projection as Alternative Cultural Heritage, *Feminist Media Histories*, 2(1) 61-85 2016年2月

鳥羽耕史「記録映画、テレビ、サブカルチャー研究とアーカイブの現状」、『日本近代文学』(94)、212-218、2016年5月

鷺谷花「満洲から筑豊へ—幻灯『せんぷりせんじが笑った!』をめぐる「工作者」たちのゆきかい」、『映像学』(96)、5-26、2016年7月

鳥羽耕史「東アジア連環画の連環: 中国から日本、韓国へ」、『アジア遊学』(199)、186-198、2016年8月

吉原ゆかり「1930年代-1950年代のジョージ・H・カーと環太平洋文化交渉の地政学」、『筑波大学大学院人文社会科学研究所文芸・言語専攻 [編] 『文藝・言語研究』(70)、41-65、2016年9月

鷺谷花「「映像作家」としての加古里子 — 九五〇年代の幻灯創作活動」、『現代思想』45(17)、130-144、2017年8月

アンニ「総論 貫戦期における日中映画 - 歴史 / 表象の連続と断絶」、『Intelligence』(18)、2018年3月

[学会発表](計11件)

鷺谷花「1950年代の「幻灯/スライド」—教育・啓蒙から運動へ—」、『昭和文学会第56回研究集会【特集 声と再現性】、於横浜国立大学、2015年5月9日

鷺谷花「《事件》を物語る幻灯—『松川事件 1951』と社会運動への幻灯の参入—」、『日文研共同研究会「戦後日本文化再考」、国際日本文化研究センター、2015年6月13日

鳥羽耕史「下丸子からルポルタージュ叢書へ—現在の会が繋いだもの—」、『日文研共同研究会「戦後日本文化再考」、国際日本文化研究センター、2015年6月13日

Hana Washitani, “Gento in Movement: Reconsidering Still Image Projection Culture within the 1950s Social Movements in Japan”, AAS-in-Asia-Taipei: Asia in Motion: Ideas, Institutions, Identities. Taipei, Academia Cinica, 2015年6月23日

アンニ「戦後日本映画における中国古典の映画化—日本、大陸、香港、東南アジアに跨る大衆文化の記憶—」、『清華大学・国際日本研究センターの共催によるフォーラム「グローバル時代における東アジアの大衆文化研究」、清華大学外国語学部、2016年11月12日

Hana Washitani, "When Grim Senji Grinned! (Senpuri Senji ga waratta!) and the history of "gento" culture in Japan", The 10th International Convention of The Magic Lantern Society, The Birmingham Midlands Institute, 2017年4月29日

紙屋牧子「最初期の「皇室映画」をめぐって：隠される／晒される「身体」」、日本映像学会第43回大会、於神戸大学、2017年6月4日

鳥羽耕史「1950年代のサークル運動と東アジアへの想像力」、在日文学ワークショップ、於リーハイ大学、2017年6月1日

鷺谷花「昭和期の児童映像文化と幻灯（スライド）」、日本児童文学学会関西例会、於大阪府立中央図書館、2017年7月1日

鳥羽耕史「文化運動のなかの民衆と伝統」、「戦後空間シンポジウム01 民衆・伝統・運動体 - 1950年代／建築と文学／日本とアメリカ」、於建築会館ギャラリー、2017年12月16日

吉原ゆかり「George H. Kerr and American Studies in Cold War Japan」, Asian Conference of Arts and Humanities (ACAH), 於兵庫県立美術館、2018年3月30日

〔図書〕(計1件)

岡田秀則〔編著〕『そっちやない こっちや映画監督・柳澤壽男の世界』、新宿書房、2018年2月、全416頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

上映プログラム「炭鉱幻灯上映会」、共催：関西・炭鉱と記憶の会・エル・ライブラリー、エル・おおさか(大阪府立労働センター)、2016年8月16日

上映プログラム「中国引揚映画人特集 - 幻灯と映画 - 」、神戸映画資料館、2016年9月4日

上映プログラム「幻灯は訴える」、山形国際ドキュメンタリー映画祭、山形美術館、2016年10月12日

上映及び講演「映像(幻灯と映画)に見る戦後の失業・貧困問題と労働運動」エル・おおさか(大阪府立労働センター)、2018年3月2日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鷺谷花(一般財団法人大阪国際児童文学振興財団・特別専門員)
研究者番号：10727100

(2) 研究分担者

土居 安子(一般財団法人大阪国際児童文学振興財団・総括専門員)
研究者番号：00416257

岡田 秀則(独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館・研究員)
研究者番号：30300693

吉原 ゆかり(筑波大学人文社会系・准教授)
研究者番号：70249621

アン ニ(日本映画大学映画学部・特任教授)
研究者番号：70509140

鳥羽 耕史(早稲田大学文学学術院・教授)
研究者番号：90346586

紙屋 牧子(独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館・研究員)
研究者番号：20571087

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()